

平成 22 年度第 1 回誠愛リハビリテーション病院院内勉強会 抄録

平成 22 年度活動目標 「医局」

1. 財務の視点

- (1)病床稼働率を上げる。
- (2)後発医薬品の増加を図る。

2.患者満足の視点

- (1)アンケート調査で満足以上を維持。
- (2)長期当院外来通院リハビリ中の患者さんの通所リハビリへの移行。

3.人材育成の視点

- (1)医局において新たな臨床研究を開始する。

4.業務プロセスの視点

- (1)他院あるいは施設への診療情報提供書の早期作成。

文責：医局副院長・内科部長 楠田憲治

平成 22 年度第 1 回 (通算 19 回) 誠愛院内勉強会 抄録

平成 22 年度活動目標「看護部」

1. 財務の視点

回復期リハビリテーション病棟からの期限内の退院

【目標値】期限延長患者 0 人

2. 患者満足の視点

退院後のフォローアップ

【目標値】家庭訪問 36 件/年間

3. 業務プロセスの視点

転倒・転落事故の減少

【目標値】前年度比 10%減少

4. 人材育成の視点

学会発表、学会・研修会への参加

【目標値】30 件/年間

文責：看護部 副院長 金山 萬紀子

平成 22 年度第 1 回（通算 19 回）誠愛院内勉強会 抄録

リハビリテーション部 2010 年度の展望

今年度は、リハビリテーション部の基本方針には大きい変更はない。しかし、平成 22 年度の診療報酬の改訂や今年度から取り組む人事考課制度に沿った目標設定、さらに昨年に伴うスタッフ数の削減、これらの三点とこれまでの取り組みでは修正が必要な点を踏まえ、各部署の連携を重視した、より安全かつ効率で効果的なリハビリテーションの実施に向けた組織づくりとスタッフ教育の展望を述べる。

文責：リハビリテーション部 副院長 林 克樹

平成 22 年度第 1 回（通算 19 回）誠愛院内勉強会 抄録

平成 22 年度活動目標「管理部」

BSC の 4 つの視点に基づいて活動目標を定めています。

1.財務の視点

部門目標 「経費削減による収益向上」

各部署ごとに徹底的な見直しを行い、経費の削減による収益の底上げを図ります。

2.患者満足の視点

部門目標 「患者満足度の向上」

身だしなみ・待ち時間短縮・クレームへの迅速な対応・患者さんへのタイムリーな情報発信といったソフト面から館内の設備更新・美化等のハード面までを含めて患者満足度の向上を目指します。

3.業務プロセスの視点

部門目標「業務の標準化(マニュアルの作成)」

業務マニュアルの整備をすすめ、業務の標準化と職員の多能化を図り、スムーズで合理的な業務の流れを確保します。

4.人材育成の視点

部門目標「個々人のレベルアップを図る」

部署毎の研修の計画的実施・外部研修会への積極的な参加と情報の共有化により、業務の標準化と個々人のレベルアップを図ります。

文責:管理部 部長 今村 洋一

平成 22 年度第 1 回 (通算 19 回) 誠愛院内勉強会 抄録

小児部門の概要

1) 2009 年度実績

- イ) 診療。外来患者数外来患者数は毎日 70 名 ~ 100 名、月単位延べ人数は 2,000 名 ~ 2,500 名。疾病別では広汎性発達障害 28%、脳性麻痺 24%、精神・精神運動遅滞 29%(含ダウン症等の染色体異常 8%)、言語障害 6%。患者数増加の原因。学会認定資格。
- ロ) 研修。新患カンファ 毎週月曜日昼休み 30 分。
小児勉強会 毎月第 4 月曜日夕方 1 時間
- ハ) 学会・講演会。日本てんかん協会福岡県支部、乳幼児痙攣国際シンポジウム、筑紫地区小学校長会、市民公開講座、子育てを考える福岡会議

2) 2010 年度目標

- イ) 診療体制。現体制のほかに、ホームページ。筑紫地区発達障害懇話会。
- ロ) 研修：新患カンファ
小児勉強会：発達障害、行動療法、発達性神経心理、子育て、家族の健康。
- ハ) 学会・講演会発表予定。日本小児科学会福岡地方会、
てんかん治療研究財団研究発表会、日本重症心身障害医学会
市民公開講座。

文責：名誉院長 黒川 徹

事前の抄録に予定していましたが、老健の一般的な理念等の説明は、時間がありませんので割愛しました。

テーマはカトレアの新しい理念と運営方針のご紹介と、今後の課題についてです。

カトレアの HP がリニューアルされる予定ですので、理念と運営方針の見直しを行いました。ケアカンファが充実しケアプランに基づいた対応が根付いてきましたので、個別の対応を目指したいという思いをいれました。

カトレアの理念：住み慣れた地域で、親しい人々に囲まれて、お一人お一人が快適に過ごせるように、最良の介護サービスを提供いたします。

運営方針；①家庭復帰を目指します。②共に手を携えて支援いたします。ご家族と共に、地域の人々や他事業所などと共にという意味です。③ヘルプアップを目指します。専門的で質の高い介護サービスを提供するために、積極的に研修活動を行います。④温かく、明るい対応を行います。心地より雰囲気の中お過ごしいただけるよう、接遇向上に努めます。この最初の文字を並べると、●カ●ト●レ●アとなり、覚えやすくなっています。

今後の課題について

昨年、ご利用者、ご家族に、なぜカトレアを選んだのか、または、なぜ、カトレアを継続して利用しているのかという点に絞ったアンケートをとりました。

入所では、・近いから ・職員が親切 ・病院の隣で医療が充実しているからが多く、通所では ・リハビリがよい ・誠愛の隣 ・職員が親切 が主な理由でした。地域、リハビリ、誠愛、接遇が key-word です。

在宅復帰に関して、カトレアは近隣の老健の中では、積極的に勧めてきたほうですが、昨今は減少気味でした。昨年は一昨年に比べさらに減少しております。この原因としては、昨年春先に急変により退所が続いた為、その後、在宅復帰促進をしなかったためと考えられます。

平均入所期間も長期化傾向を示し、昨年は360日を越えました。

急変者は例年、春先に多く、夏は少なくなっています。平成20年、21年の累計74名の原因疾患としては、約半数が、肺炎など感染症です。搬送先の病院は、感染症の多くは誠愛リハビリテーション病院に治療をお願いしておりますが、病状にあわせ徳洲会病院や、紹介元の病院にもお願いすることが多くなりました。

開設以降、3階は重度、2階は軽度のご利用者となっております、職員体制もスライドのようになっております。2階のご利用の条件は、遠監視で移動が自立している、あるいは、移乗が一人介助で可能で、NCを押せ、しかも待つことが出来ることとなっておりますが、ここ数年、最初から2階に入所できる方が少なく、そのため、カトレア全体では空床があるのに、入所ができないということがよくあります。介護業務を改善し、勤務体制の早急な見直しが必要と考えます。

今後は、入所後早期に利用者の方向性を決定し、ケア管理を改善し、的確な病状コントロール、リスク管理にて急変者を減らし病床の利用を安定させ、ご家族や関係部署、機関と連携を密に

し、アンケートからの key word である、誠愛リハビリテーション病院からの紹介患者などのスムーズな入所をはかり、また、在宅復帰率のアップ、入所期間の短縮化を目指したいと考えます。

アンケートの key-word、地域とのかかりについては、現在、南ヶ丘1区を中心し、ボランティアカトリア（登録者10名）、施設行事への参加、今年から地域ケア会議にもスタッフが出席しております。今年は、地域行事への利用者の参加を検討しています。

アンケートの key-word、リハビリに関しては、誠愛併設の施設として密度の濃いリハビリの提供体制ができています。特に認知症短期集中リハビリテーションについては、症例を蓄積し、様々な指標を用いての評価結果を来年、老健大会で発表する予定です。

その他、施設理念の見直しにあわせ、今回から各部署での理念、運営方針も決めております。以前から活発だった、委員会活動の再編を行いました。新たに入浴サービス委員会が設置され、安全で快適な入浴サービスに向けて活動を開始いたします。

以上がカトリアの本年度の活動目標となっております。